

金八先生さようなら

TBS系のドラマ「3年B組金八先生」がフィナーレを迎えました。ドラマの中とはいえ、担任の坂本金八先生が定年で退職ということになったわけです。

初回の放送が1979年といえますから32年前、金八先生も長髪の29歳と本当に若かったのですね。このドラマは、これまでに8シリーズが放送されていますが、いずれも高い視聴率を獲得し、多くの人々に支持されてきました。

ドラマが始まった1970年代後半は、それまでの高度成長が陰りを見せ、特に二次にわたるオイルショックによって低成長へと突入していった時代です。世の中の価値観が大きく変わりつつある中、学校教育を巡っても校内暴力をはじめ、いじめや不登校など課題が山積していました。

「金八先生」以前にも「熱中時代」や「俺は男だ」といった学園ドラマはありましたが、「金八先生」はそれらとは一線を画するものであったといえて良いでしょう。

「金八先生」の第1シリーズで取り上げたテーマは15歳で妊娠というセンセーショナルなものでした。その後も、校内暴力や少年非行、学級崩壊や薬物問題、更には発達障害といったなどを取り上げ、大きな反響を呼びました。

その背景には、「金八先生」はドラマ仕立てではありますが、現実の学校が抱えている様々な問題に迫ろうとするもので、そうした姿勢が共感を得たということがあるでしょう。実際、いじめや不登校、少年非行などは、多くの学校現場や家庭での現実の問題でありました。また一方、子どもたちの世界も、時代の変化に捲き込まれながら沢山の悩みや矛盾を抱えていたと思

ます。いってみれば、大人も子どもも出口のない閉塞感に襲われていたのではないのでしょうか。そのような中、金八先生が登場し、他の教師や子どもたち、その親たちともぶつかりながら問題を解決していき、まるで時代のヒーローのようでした。

金八先生がヒーローになり得たのは、先生役の武田鉄矢さんのキャラクターもあると思いますが、何より、子どもたちやその親たちがスーパーマンのような先生の存在を求めていたからだと思っています。

ただ、その結果として、学校におけるさまざまな問題を教師力に転嫁してしまう傾向が強まったのではないかと感じています。しかし、現実を見れば、多くの問題は、教師の力だけで解決することが困難な状況にあります。ドラマと現実の差は非常に大きなものになっているのです。「金八先生」のドラマからの退場は、その事を象徴しているように思います。

とはいえ、様々な教育課題は、一人ひとりの教師が逃げずに、真正面から取り組んでいかない限り解決することはできません。その意味では、今こそ、自分のことよりも子どもたちのことを第一に考え、熱っぽく、しぶとく、大胆にそして繊細に教師の道を追求していく金八先生を必要としていますし、そんな先生が一人でも多く登場することを願っています。

（塾頭 吉田 洋一）